

# イネ

イ  
ネ

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	箱育苗での登録	いも葉枯病	稲ことうじ病	苗立枯病(ピシウム菌)	苗立枯病(トリコデルマ菌)	苗立枯病(フザリウム菌)	紋枯病	小粒菌核病	穂枯れ(ごま葉枯病)	もみ枯細菌病	内穎変病	白葉枯病	葉鞘変病
ボトキラー水	生物農薬	BM2		*N	-		◎											
Zボルドー粉DL	無機	M1		*t	-		◎											
アミスターエイトFL	QoI	11		14	3		◎◎					◎		ス				
バシタック水75	アミド	7		14	3							◎						
モンカットFL40	アミド	7		14	3							◎						
モンカット粒	アミド	7		*f	3							◎						
リンバー粒	アミド	7		30	2							◎						
ルーチン粒	アミド	P3		*a	1	☆	◎							◎	◎	◎	◎	
				30	2		◎						◎				◎	
カスミン液	抗生物質	24		*h	1	☆	◎											
バリダシン液5	抗生物質	U18		*e	2		◎											
ゴウケツ粒	メラニン生合成阻害	16.3		*s	1		◎								◎	◎		
コラトップ粒5	メラニン生合成阻害	16.1		*L	2										◎			
				*p			◎											
キタジンP粒	有機リン	6		*g	2							◎◎						
				*n			◎											
Dr.オリゼ箱粒	他	P2		*j	1	☆	◎							◎				
				*w		☆	◎								◎		◎	
オリゼメート粒	他	P2		*M			◎											
				*F	2										◎		◎	
				*y											◎			
ダコニール1000FL	他	M5		*B	2	☆			◎									
ダコニール粉	他	M5		*b	1	☆			◎									
タチガレン液	他	32		*d	2	☆			◎		◎							
				*c	1	☆	◎											
タチガレン粉	他	32		*b	1	☆			◎		◎							
				*z	2			◎					◎					
フジワン粒	他	6		*q			◎											
				*m	1	☆	◎											
				*c	1	☆	ナ											
ダコレート水	ベンゾイミダゾール・他	1・M5		*B	2	☆			◎	◎	◎							
タチガレエースM液	他・アミド	32・4		*k	1	☆		◎		◎								
ブラシンFL	他・メラニン生合成阻害	U14・16.1		7	2		◎◎◎							◎◎◎				

## イネ

- ※ 育苗箱等に農薬を使用する際は、使用農薬が周囲にこぼれ落ちないように慎重に行うこと
- ※ 水田に水を張った状態で農薬を施用する場合には、規定の止水期間(1週間程度)を遵守し、用水の掛け流しを行わない等、水管理に注意し、水系への農薬の流出を防ぐこと

☆:箱育苗での登録内容について、☆を付した

- \*a:播種前、播種時(覆土前)、播種時(覆土前)～移植当日(病害により使用時期が異なるので注意)
- \*b:播種前
- \*c:播種時
- \*d:播種時及び発芽後
- \*e:穂揃期まで
- \*f:出穂30～10日前、但し収穫14日前まで
- \*g:出穂7～20日前
- \*h:覆土前
- \*i:移植3日前～移植前日
- \*j:移植当日
- \*k:播種時又は発芽後
- \*m:苗の緑化期～移植直前まで
- \*n:葉いもちに対しては初発7日前～初発時、穂いもちに対しては出穂7～20日前
- \*p:葉いもちに対しては初発10日前～初発時、穂いもちに対しては出穂30～5日前まで
- \*q:葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前 但し収穫30日前まで
- \*s:出穂5日前まで、但し収穫30日前まで
- \*t:出穂10日前まで
- \*w:緑化期～移植当日
- \*y:出穂3～4週間前まで、但し収穫14日前まで
- \*z:出穂10～30日前まで、但し収穫30日前まで
  
- \*B:播種時から緑化期、但し播種14日後まで
- \*F:移植活着後及び出穂3～4週間前、但し収穫14日前まで
- \*L:出穂30～5日前
- \*M:葉いもちには初発の10日前～初発時、穂いもちには出穂3～4週間前、但し収穫14日前まで
- \*N:穂ばらみ期～刈取前
- ス:ごま葉枯病菌の他、すじ葉枯病菌による穂枯れも適用
- ナ:苗いもちに適用



# イネ

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	箱 育 苗 登 録	ニ カ メ イ チ ユ ウ シ	イ ネ メ ツ メ イ シ	コ ブ ノ メ イ ガ	フ タ オ ビ コ ヤ ガ	イ ネ ド ロ オ イ ム シ	カ メ ム シ	ウ ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ	ア ザ ミ ウ マ マ	イ ネ ハ モ グ リ バ エ	イ ネ ヒ メ ハ モ グ リ バ エ	イ ナ ゴ	イ ネ シ ン ガ レ セ ン チ ユ ウ	ス ク ミ リ ン ゴ ガ イ (食 害 防 止)	そ の 他 害 虫			
																					14 -	3 3	◎
トレボンMC	ビ <sup>レ</sup> スロイ <sup>ト</sup>	3A		14 -	3 3			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
トレボン乳	ビ <sup>レ</sup> スロイ <sup>ト</sup>	3A		14	3			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
トレボン粉DL	ビ <sup>レ</sup> スロイ <sup>ト</sup>	3A		7	3		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
トレボン粒	ビ <sup>レ</sup> スロイ <sup>ト</sup>	3A		21	3		①			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
なげこみトレボン	ビ <sup>レ</sup> スロイ <sup>ト</sup>	3A		*h	3		①			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
キラップFL	フェニルビ <sup>ラ</sup> ゾ <sup>ール</sup>	2B		14 -	2 2					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
				*b	1	☆					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
キラップ粉DL	フェニルビ <sup>ラ</sup> ゾ <sup>ール</sup>	2B		14 -	2 2					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
プリンス粒	フェニルビ <sup>ラ</sup> ゾ <sup>ール</sup>	2B		*e	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
				*j	☆																		
				*f	1	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
				*b	☆																		
				*k	☆																		
スミチオン乳	有機リン	1B		21 -	2 1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
スミチオン粉3DL	有機リン	1B		*L -	4 4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			ア		
ギャング粒	カーハート・フェ ニルビ <sup>ラ</sup> ゾ <sup>ール</sup>	1A・ 2B	劇	*b	1	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
アブロードバッサ粉 DL	IGR・カーハート	16・ 1A		7	4									◎	◎								
ゼクサロンパディ ート箱粒	ジアミド <sup>ト</sup> ・他	28・ 4E		*d						◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
				*e	1	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
				*f	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
フェルテラチエス箱 粒	ジアミド <sup>ト</sup> ・他	28・ 9B		*f	1	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
				*b	☆	◎	◎																
パダンバッサ粒	ネライトキシ ン・カーハート	14・ 1A	劇	30	5		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎		

※ 育苗箱等に農薬を使用する際は、使用農薬が周囲にこぼれ落ちないように慎重に行うこと  
 ※ 水田に水を張った状態で農薬を施用する場合には、規定の止水期間(1週間程度)を遵守し、用水の掛け流しを行わない等、水管理に注意し、水系への農薬の流出を防ぐこと

# イネ

☆:箱育苗、または育苗箱での登録内容について、☆を付した

- \*b: 移植3日前～移植当日
- \*c: 移植2日前～移植当日
- \*d: 移植時
- \*e: 播種前
- \*f: 播種時(覆土前)～移植当日
- \*g: 硬化期～移植前日
- \*h: 5葉期以降(但し収穫21日前まで)
- \*i: 浸種前
- \*j: 播種時(覆土前)
- \*k: 移植当日
- \*L: 2回以内(但し出穂前は1回)
- \*m: 播種前又は移植当日

- ア: アワヨトウ
- イ: イネアザミウマ
- ウ: ヒメトビウンカ及びセジロウンカ
- カ: イネカラバエ
- ク: イネクロカメムシ
- コ: イネゾウムシ幼虫及びイネミズゾウムシ
- ク: イネゾウムシ及びイネミズゾウムシ
- ヒ: ヒメトビウンカ
- ラ: アブラムシ類

休: 適用作物は、水田作物、畑作物（休耕田）。適用場所は、ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウなどの多年生雑草が優占している休耕田。

幼: 幼虫

成: 成虫

①: 第一世代

②: 第一世代及び第二世代

# イネ (殺虫殺菌混合剤)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	箱 育 苗 の 登 録 病 病 病	い も 枯 病	紋 葉 枯 病	白 葉 枯 病	内 籾 穂 変 病	も み 枯 病 (ごま 葉 枯 病 菌)	ニ カ メ イ チ ユ ウ	イ ネ ツ メ ム シ	フ タ オ ビ メ コ ヤ ガ	イ ネ ド ロ オ イ ム シ	カ メ ズ ゾ ウ ム シ	ウ メ ン カ シ	ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ	イ ネ ヒ メ ハ モ グ リ バ エ	ナ ゴ 類	
																					*c
ブイゲットフェルテ ゼクサロンL粒	ジアミド・他・ア ミド	28・ 4E・ P3			1	◎					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
箱大臣粒	ネオニコチノイド・アミ ド・アミド	4A・ P3・7			1	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎			
イモチエーススター クル粒	ネオニコチノイド・ス トリルリン	4A・ 11		35	1	◎	◎			◎			◎			◎	◎	◎			
デジタルコラトップ アクタラ箱粒	ネオニコチノイド・マ ネン生成成阻害	4A・ 16.1		1	☆	◎								◎	◎			◎			
ブラシンドアントツFL	ネオニコチノイド・ 他・マネン生成 成阻害	4A・ U14・ 16.1		7	2	◎				◎							ク	◎	◎	◎	◎
パダンバッサオリゼ メート粒	ネオニコチノイド・カ バメート・他	1A・ P2	劇	30	2	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	
コラトップレボン 粒	ピレスロイド・マ ネン生成成阻害	3A・ 16.1		*a	2	◎					①							◎	◎	◎	
ブラシンジョーカー FL	ピレスロイド・ 他・マネン生成 成阻害	3A・ U14・ 16.1		14	2	◎		◎	◎	◎			◎					◎	◎	◎	
ブラシントレボン粉 DL	ピレスロイド・ 他・マネン生成 成阻害	3A・ U14・ 16.1		7	2	◎				◎								◎	◎	◎	
Dr.オリゼプリン ス粒6	フェニルピラゾール・ 他	2B・ P2		*e	1	☆	◎	◎			◎	◎	◎		◎	◎		◎			◎
フジワンプリンス粒	フェニルピラゾール・ 他	2B・ 6		*e	1	☆	◎				◎	◎	◎		◎	◎		◎			◎

※ 育苗箱等に農薬を使用する際は、使用農薬が周囲にこぼれ落ちないように慎重に行うこと  
 ※ 水田に水を張った状態で農薬を施用する場合には、規定の止水期間(1週間程度)を遵守し、用水の掛け流しを行わない等、水管理に注意し、水系への農薬の流出を防ぐこと

☆:育苗苗での登録内容について、☆を付した

\*a:出穂5日前まで \*b:移植当日 \*c:移植時  
 \*d:移植3日前~移植当日 \*e:緑化期~移植当日 \*f:移植7日前~移植当日  
 ①:第一世代  
 ク:イネクロカメムシ

# イネの種子消毒

## 1. 薬剤処理の手順

塩水選⇒水洗い⇒水切り⇒薬剤処理⇒風乾⇒浸種⇒催芽⇒播種  
 ※ 浸種する場合、水温は10℃以下にしない

## 2. 主な種子消毒剤の対象病害虫と処理方法

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用回数	使用時期(日数)	処理方法		病害虫名							
						種子粉衣	種子浸漬	ばか病	ごま葉枯病	いもち病	苗立枯病	もみ枯細菌病	苗立枯細菌病	褐条病	イネセンシチユレウ
エコホープDJ水	BM2	-		*e	-	☆	◎		◎	リ	◎	◎	◎		
タフブロック水	BM2	-		*d	-	☆	◎		◎	フ	◎	◎	◎		
スポルタック乳	DMI	3		*b	1	☆	◎	◎	◎						
トリフミン乳	DMI	3		*b	1	☆	◎	◎	◎						
ヘルシード乳	DMI	3		*b	1	☆	◎	◎	◎						
スターナ水	他	31		*b	1	☆					◎	◎	◎		
ヘルシードTFL	有機硫黄・DMI	M3・3		*b	1	☆	◎	◎	◎	ト	◎			◎	
ベンレートT水20	有機硫黄・ベンゾイミダゾール	M3・1		*b	1	☆	◎	◎	◎	ピ	◎			◎	◎
ホームイコート水	有機硫黄・ベンゾイミダゾール	M3・1		*b	1	☆	◎	◎	◎	◎					
ホームイ水	有機硫黄・ベンゾイミダゾール	M3・1		*b	1	☆	◎	◎	◎	◎			◎		◎
スポルタックスターナSE	他・DMI	31・3		*b	1	☆	◎	◎	◎		◎	◎	◎		
パダンSG溶	ネオイタキシン	14	劇	*b	1	☆									◎
スミチオン乳	有機リン	1B		*a	1	☆									◎

\*a:播種前

\*b:浸種前

\*c:浸種後

\*d:浸種前、浸種前～催芽前、催芽前、催芽時(病害及び使用方法によって使用時期が異なるので注意)

\*e:浸種前～催芽前、浸種前～催芽時、催芽時(病害及び使用方法によって使用時期が異なるので注意)

ト:対象の病原菌はトリコデルマ菌及びリゾープス菌

ピ:対象の病原菌はピシウム菌、リゾープス菌、トリコデルマ菌及びフザリウム菌

フ:対象の病原菌はリゾープス菌、トリコデルマ菌及びフザリウム菌

リ:対象の病原菌はリゾープス菌

イネの種子消毒

# イネ

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ばか苗病 ごま葉枯病 いもち病	採種時	・種子は無病菌より採種する。	塩水選に使用する食塩水の濃度 うるち：水100に食塩1.9kg(比重1.13) もち：水100に食塩1.1kg(比重1.08) 消毒液、停滞水の温度は10℃以下とならないようにつとめる。
	浸種前	1. 種子は塩水選を行う。終了後十分に水洗いし、陰干しする。 2. 種子を次の薬剤のいずれかに所定時間浸漬し、消毒する。種子と薬液量との容量比は1：1とする。 トリフミン乳剤 30倍液 10分間 300倍液 24～48時間 ヘルシード乳剤 20倍液 10分間 200倍液 24時間 ヘルシードTフロアブル 20倍液 10分間 200倍液 24時間 3. 消毒の終わった種子は薬液をきり、5～24時間風乾し、浸種(停滞水)、催芽(芽出し)した後播種する。停滞水は2～3日間は換水しない。	
	田植後	・病苗は抜きとり処分する。	
苗立枯病(箱育苗)	播種前	1. 育苗箱はよく水洗した後、次の資材消毒剤(農薬ではない)のいずれかに、瞬間または10分間浸漬する。 イチバン乳剤 500～1000倍 ケミクロンG水和剤△ 1000倍 2. 育苗土は消毒する(土壌消毒の項参照)。	箱土のpHは4.5～5.5に調整する。育苗中の温度は35℃以上の高温や、10℃以下の低温にならないように注意する。 △ケミクロンG水和剤の500倍液を育苗箱にジョウロで散布してもよい。 ダコニールはリゾープスに、タチガレンはピシウム、フザリウムに、ダコレートはリゾープス、トリコデルマ、フザリウム菌に有効。
	播種前、播種時または播種後	・次の薬剤のいずれかを育苗箱(培土約50あたり)に施用する。 ダコニール粉剤 15～20g タチガレン液剤 1000倍 10l 500～1000倍 500ml ダコレート水和剤 800～1200倍 10l 400～600倍 500ml	
いもち病	移植期	・次の薬剤のいずれかを育苗箱(培土約50あたり)に施用する。 オリゼメート粒剤 20～30g フジワン粒剤 50～75g	

イ  
ネ



# イネ

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(いもち病)	分けつ期 (葉いもち)	1. 窒素質肥料の過剰施用、冷水の流入をさける。 2. 発病前または発病初期に次の薬剤のいずれかを施用する。 オリゼメート粒剤 3～4kg/10a カスミン液剤 1000倍	粒剤施用後数日間は一止め水状態とする。
	出穂前(穂いもち)	・次の薬剤のいずれかを施用する。 オリゼメート粒剤 3～4kg/10a キタジンP粒剤 3～5kg/10a フジワン粒剤 3～5kg/10a	
紋枯病	穂ばらみ期～出穂直前	1. 窒素質肥料の偏用をさける。 2. 次の薬剤のいずれかを施用する。 バシタック水和剤75 1000～1500倍 バリダシン液剤5 1000倍 モンカット粒剤 3～4kg/10a リンバー粒剤 3～4kg/10a	早期栽培、直播栽培に発生が多い。
もみ枯細菌病	採種時	・種子は無病菌より採種する。	種子消毒は浸種前または浸種後のいずれか1回とする。 もみと薬液の容量比は1:1以上とする。長時間浸種の場合は処理中に1～2回かく拌する。
	浸種前	・種子は塩水選を行う(ばか苗病の項参照)。	
	浸種後	・次の薬剤で種子消毒する。 スターナ水和剤 20倍 10分間 200倍 5時間	
白葉枯病	出穂前	・出穂の3～4週間前(但し、収穫14日前まで)に次の薬剤を散布する。 オリゼメート粒剤 3～4kg/10a	
内 穎 褐 変 病	穂ばらみ期～穂揃い期	・発生が予想される場合は次の薬剤を散布する(但し、収穫21日前まで)。 ブラシンフロアブル 1000倍	出穂時に雨が多く、その後、高温が続くと発生が多い傾向がある。
ニカメイチュウ	第1世代	・田植10～14日後、または発蛾最盛期が田植後にくる場合は、発蛾最盛期の10～14日後に次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤 1000～2000倍	
	第2世代	・成虫発生最盛期5日頃から次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤 800～1000倍	

イ  
ネ

# イネ

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(ニカメイチュウ)	世代共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>スミチオン粉剤3DL 3～4kg/10 a</li> <li>パダンSG水溶剤 1500倍</li> <li>パダン粉剤DL 3～4kg/10 a</li> </ul>	
イネツトムシ	8月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>パダンSG水溶剤 1500倍</li> <li>パダン粉剤DL 3～4kg/10 a</li> </ul>	
コブノメイガ	8月下旬～9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の薬剤のいずれかを散布する。</li> <li>スミチオン粉剤3DL 3～4kg/10 a</li> <li>パダンSG水溶剤 1500倍</li> <li>パダン粉剤DL 3～4kg/10 a</li> </ul>	<p>第1、第2世代の発生は少なく、第3世代幼虫が9月頃から多発する。</p> <p>第2世代幼虫による8月の被害が目立つ時は、第3世代が急増し穂ばらみ期に止葉が真白く食害されることがある。</p>
イネミズゾウムシ	移植期(育苗箱施用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械植えの場合は、次の薬剤のいずれかを育苗箱に施用する。</li> <li>アドマイヤーCR箱粒剤 50 g/箱</li> <li>オンコル粒剤5 30～60 g/箱</li> <li>プリンス粒剤 50 g/箱</li> </ul>	<p>育苗箱の上から均一に散布する。なお、軟弱徒長苗および葉が濡れた状態で散布すると薬害があるので注意する。</p>
	移植後(本田水面施用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>手植え、または箱施用しなかった場合は、次の薬剤のいずれかを幼虫発生期(田植え10日後)に水面施用する。</li> <li>トレボン粒剤 2～3kg/10 a</li> </ul>	
ツマグロヨコバイ ・ ウンカ類	苗代末期 本田初期	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の薬剤のいずれかを散布し防除する。</li> <li>アドマイヤー1粒剤 3 kg/10 a</li> <li>アブロードバッサ粉剤DL 3～4kg/10 a</li> <li>ダントツ水溶剤 4000倍</li> <li>トレボン粉剤DL 3～4kg/10 a</li> <li>トレボン粒剤 2～3kg/10 a</li> <li>なげこみトレボン△ 10個/10 a</li> </ul>	<p>ヒメトビウンカは4～6月に気温が高いときは特に警戒する。</p> <p>△なげこみトレボンは、土壌にめり込ませないよう畦畔から軽く投げ入れる。本剤処理後、少なくとも3～4日はそのままの状態を保ち、田面を露出させたり、水をきらしたり、深水にしたりしないように注意する。</p>

イ  
ネ

## イネ

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
セジロウ ンカ ・ トビイロ ウンカ	7月下旬 ～8月  8月下旬 ～9月	・発生を見たら、次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤# 3000倍 スタークル顆粒水溶剤# 3000倍 バッサ乳剤# 1000～2000倍	6月下旬および7月前半の間に多飛来の年は多発の可能性が高い。 予察情報に注意する。 #ウンカ類での登録
イナゴ類 (コバネ イナゴ・ ハネナガ イナゴ)	6月下旬～ 7月上旬 (幼虫初期)	・畦畔および畦際のイネを重点に次の薬剤を散布する。 トレボン粉剤DL 3～4kg/10 a	年1回発生。ふ化は5月中旬～6月中旬に、成虫は7月下旬～8月中旬に発生。産卵は9月頃(畦畔など)。
カメムシ 類	穂揃期と その7～10 日後 (乳熟期)	1. 水田周辺の畦畔、休耕田の雑草を冬期又は移植から出穂2週間前までに除去する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 MR. ジョーカー粉剤DL 3～4kg/10 a スミチオン粉剤3DL 3～4kg/10 a ダントツ水溶剤 4000倍	出穂2週間前以降に除草するとカメムシ類の水田への移動を助長する。斑点米の原因になる。

イ

ネ